

オープンな協創でイノベーション創出を加速する 新たな研究開発拠点「協創の森」



日立は、よりオープンな協創活動を加速し、グローバルなイノベーションを生み出していく研究開発拠点として、今年4月、東京都国分寺市の中央研究所内に「協創の森」を開設しました。SDGs^{※1}や Society 5.0にも掲げられる、人間中心でQoL^{※2}の高い持続可能な社会の実現に向けて、社会課題を解決するイノベーションを世界へ発信していきます。

※1 Sustainable Development Goals

※2 Quality of Life



■ 先端技術と顧客協創を融合する 新たなスタイルの研究開発拠点

武蔵野の豊かな自然が息づく東京都国分寺市の森の中に日立の中央研究所が設立されたのは1942年のことです。以来77年、先進的で多岐にわたる研究開発活動を通じて、中央研究所はエネルギーや半導体、コンピューターといった日立における大型事業の創出に寄与しながら、“技術の日立”を体現してきました。

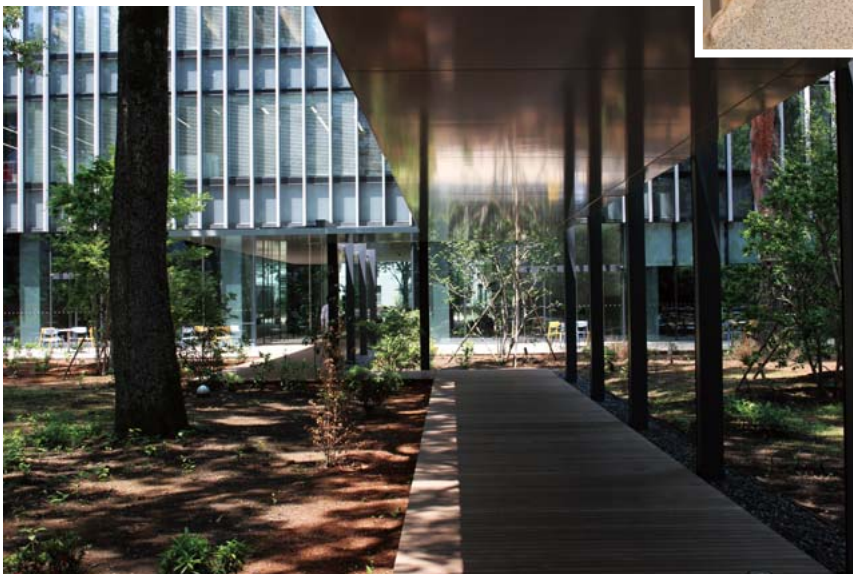
近年、日立は、社会イノベーション事業に注力するとともに、顧客のイノベーションパートナーとなるべく、さまざまな取り組みを推進してきました。その一環として、2015年に研究開発グループの体制を一新し、顧客とともにソリューションを開発する「社会イノベーション協創センタ (CSI)」、ソリューション開発に必要な技術基盤を開発する「テクノロジーイノベーションセンタ (CTI)」、長期的視点に立って未来の社会イノベーション事業を創生する「基礎研究センタ (CER)」の3つを柱とする顧客協創型の組織に再編しました。

これまでCSIをフロント組織として、顧客協創方法論「NEXPERIENCE」や、デジタルイノベーションを加速する^{ルマダ}Lumadaを活用して顧客協創を進めてきました。

さらに日立は、次なるステージへ協創をステップアップさせる取り組みに着手しました。その拠点となるのが、2019年4月、東京・国分寺地区の中央研究所内に開設した「協創の森」です。

■ 革新の種を森に育て上げ、 ここから世界へ発信

中央研究所の構内にはケヤキやクヌギ、スギなどの約120種、約27,000本の樹木が生い茂り、構内各所から湧き出る水は大池を形成し、白鳥やマガモが羽を休めています。そしてその水は野川や多摩川を下って東京湾から広大な太平洋へと注ぎます。ここに息づくこの豊かな自然をお手本に、イノベーションの種子を樹木に、さらに大きな森へと育て上げ、その価値を世界へ向けて発信し、そしてそれぞれの受け手がまた新たなイノベーションを生み出す。そんな好循環を生み出すイノベーションの中心地となることこそが、協創の森のめざす姿です。





③



①



**新設の「協創棟」を中心に
開かれた研究開発環境を整備**

この協創の森の中核となる施設が、2019年3月に竣工した協創棟です。地上4階建て、延べ床面積約16,000㎡^{しゅんこう}のこの施設には、顧客やパートナーの皆さまと日立が協創するための「プロジェクトスペース」①のほか、約350名を収容可能な国際会議場「日立馬場記念ホール」②、アイデアソンやハッカソンといった社内外の人々との協創ワークショップの場「NEXPERIENCEスペース」③、打ち合わせや講演会などにも対応できるカフェライブラリー④などを設置。課題解決をめざす個々の顧客に加え、世界中から招いたより多くの方々とのオープンな協創を実現するために必要な機能と

環境を提供します。

中でも、協創棟の心臓部ともいえるのが、顧客やパートナーの皆さまと日立の研究者やデザイナーが協創を推進するための空間「プロジェクトスペース」です。IoT^{※3}プラットフォームなど日立の先端デジタル技術を体験できる「プロジェクトベース」と具体化されたアイデアを集中開発する「プロジェクトルーム」で構成されています。

協創の森では、こうした顧客との協創を進めるための「協創の森パートナープログラム」のほか、複数の参加者がディスカッションや共同作業などを通じてアイデアやソフトウェアの創出に取り組むアイデアソンやハッカソンなど、さまざまなイベントを開催しながら、新たなアイデアや事業機会、ビ

ビジネスモデルを日々探究しています。

※3 Internet of Things

「協創の森」に継承された 日立創業の精神

日立は、SDGsやSociety 5.0を踏まえ、2021中期経営計画においては「経済価値」に加え、「社会価値」「環境価値」の提供を打ち出しています。こうした社会実装による「社会価値」、さらにデジタル技術によって豊かな自然を守る「環境価値」を生み出すという点でも協創の森には大きな期待が託されています。そうした期待に対し、社会イノベーション協創センターのデザインの力、テクノロジーイノベーションセンターのテクノロジーの力、さらに基礎研究センターのサイエンスの力を結集し、これらの総合力と、多数のステークホルダーとの協創によって強いイノベーションを創生していくの

が協創の森のねらいです。

これからも日立は、この協創の森で果敢に展開されるオープンな協創を通して、社会課題を解決しうるイノベーションを創生し、人間中心でQoLの高い持続可能な社会の実現をリードしていきます。



①～④ 撮影：吉村昌也

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 研究開発グループ
<https://www.hitachi.co.jp/rd/>

